

# 健康食品やサプリメントを利用する患者さんへの薬学的管理の意義と実践

～鳥取大学医学部附属病院薬剤部における取り組み～

健康食品やサプリメント(以下 健康食品)の利用者が増加する中、利用者の体質や過剰摂取に起因する肝障害など健康被害の報告も増えています。鳥取大学医学部附属病院では、患者さんに安全で安心な治療を提供する目的で、入院患者を対象に「NR・サプリメントアドバイザー」(NRSA\*)の資格を持った薬剤師と病棟薬剤師が共同で薬学的介入を行っています。その活動について、薬剤部長の島田美樹先生と薬剤師の安達真紀子先生に伺いました。

\*NRSA: Nutritional Representative Supplement Adviser (日本臨床栄養協会 認定資格)

## 業務の見える化の徹底とともに 取り組み成果を論文発表

▶▶ 薬剤部が注力している取り組みについてお聞かせください。

島田 薬剤部では、薬物血中濃度や検査値などの根拠に基づいた適正な薬物療法に力を入れています。また、

薬剤師の活動成果を示すため、インシデント事例の減少や業務改善例などを数値化(見える化)して検討・分析しています。

更に、これらの成果を論文として専門誌などに公表できるよう、薬剤師に論文の書き方を徹底的に指導しています。日常業務における取り組みを論文として外部に発信することは、業務の成果を業績として残す上で有効です。

このような取り組みの一つとして、健康食品を利用する入院患者さんへの薬学的管理があります。

## NRSA薬剤師と病棟薬剤師による健康食品の薬学的管理

▶▶ NRSAの資格を取得した経緯をお聞かせください。

安達 NRSAの一般的な役割は、健

康食品に関する正確かつ確かな情報を提供し、消費者が自らの判断で商品を選択、あるいは中止できるよう支援することです。近年、予防医学の観点から健康食品を利用する方が増えていきます。入院患者さんもその例に漏れず、健康食品の利用者が増加しており、病棟で健康食品に関する質問や相談を頻繁に受ける中で、健康食品を含めた薬学的管理の必要性を感じ、病院薬剤師としてNRSAの資格を取得しました。

▶▶ 入院患者さんが健康食品を利用する際、特に問題になるのは何でしょうか。

安達 問題となるのは、健康食品の素材成分等により引き起こされる副作用や治療薬との相互作用です。特に高齢者や肝臓・腎臓の機能が低下している患者さんでは、医薬品や健康食品中の成分を代謝・排泄する機能が低下しているため、それらの血中濃度が高値となり、思わぬ副作用や相互作用発現の可能性が高まります。特に過剰摂取や複数の製品を利用しているケースでは注意が必要です。

「薬は副作用が心配であるが、食品である健康食品は大丈夫」と自己判断で健康食品の摂取を開始されたり、

健康食品に頼って医師から処方された薬を中止されたりする方もおり、内服アドヒアランスの低下が治療に悪影響を及ぼす例もあります。このようなことから入院患者さんの健康食品の利用状況の把握が非常に重要です。

▶▶ 健康食品の薬学的管理は、どのように行われているのでしょうか。

安達 各病棟薬剤師が初回面談時に、図表に示した手順に従い、アレルギー歴や副作用歴と一緒に、必ず健康食品の摂取の有無、商品名、摂取量、利用目的、利用前後の体調の変化等を聞き取ります。その内容を電子カルテ内のテンプレートを利用して記入し、他職種と情報共有できるようにしています。

調査には、健康食品の素材に関する安全性情報として、国立健康・栄養研究所の管理する「『健康食品』の安全性・有効性情報」、日本健康食品・サプ

リメント情報センター「ナチュラルメディスン・データベース(冊子体・オンライン版)」を利用しています。これらデータベース情報に基づき、患者の治療上の利益・不利益の観点から、独自に作成したアルゴリズムに従って継続の可否や介入の適否の判断を行っています。病棟薬剤師のみでは評価が難し

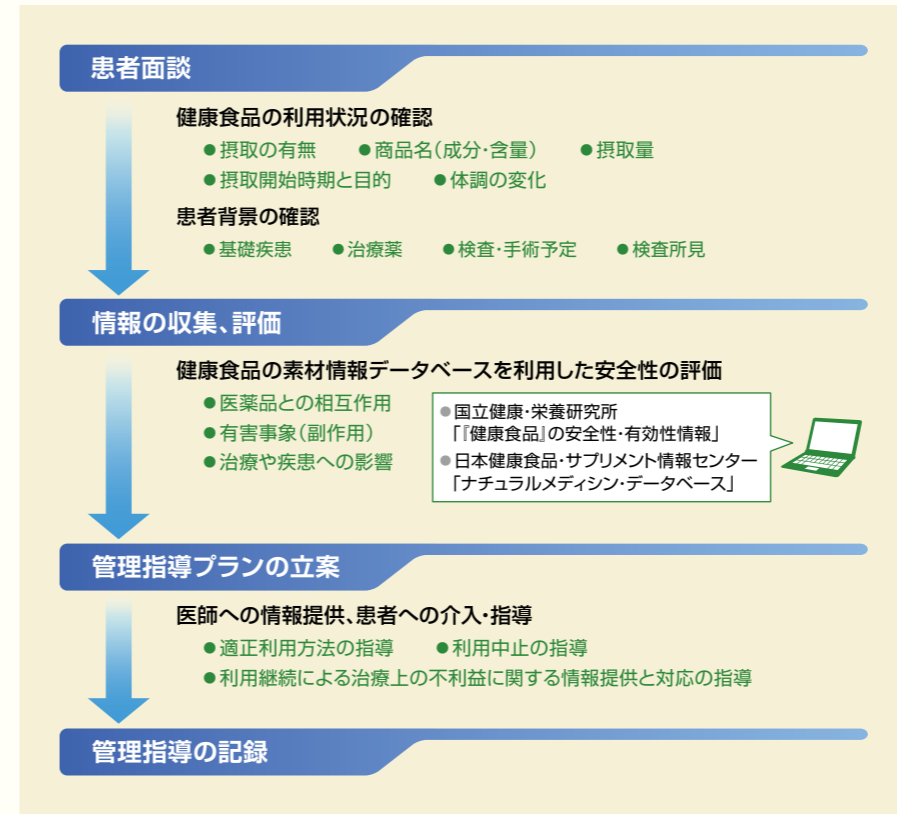


薬剤部長  
島田 美樹 先生



薬剤師  
安達 真紀子 先生  
(NR・サプリメントアドバイザー)

図表 健康食品利用患者への病棟薬剤師による薬学的管理の手順



い事例は、適宜相談に応じています。

島田 薬剤師から情報提供を受けた医師が健康食品の継続不可と判断をした場合は、病棟薬剤師が治療の妨げになる成分や作用などを患者さんに丁寧に説明し、納得した上で利用を中止していただいています。「成分の体内への蓄積などにより肝機能などが影響を受け、中止してもすぐには検査値が改善しない場合もある」ことなど、健康食品による体への影響を詳細に説明しています。

## 病棟薬剤師の聞き取りにより患者さんの不利益回避

▶▶ 実際の介入事例をお聞かせください。

安達 このような標準化された薬学的管理指導の体制下で、病棟薬剤師の関与により健康食品が原因と考えられる薬物性肝障害の重症化を回避できた症例を紹介します。原因不明の肝

機能障害で検査入院となった患者さんで、既往歴のない方でした。健康食品の利用状況を確認したところ、約10年前から複数の商品を摂取されており、さらに近医にて肝障害の発覚を機に、自己判断で推奨量の約6倍量に増量して摂取されていました。

利用されていた商品の素材成分に、スピリリナと霊芝が含まれており、いずれも過量摂取による肝障害の報告がありました。主治医に情報提供し、全ての健康食品摂取が中止となりました。その後、倦怠感や食欲不振などの自覚症状、肝機能が改善傾向となったこと、肝生検の結果から薬物性肝障害の所見も認められ、健康食品による肝障害と診断されました。

島田 霊芝は漢方薬にも含まれている成分であります。それ自体が悪いものではありませんが、これを含む健康食品での肝障害は以前から報告されています。

一般的に健康食品中に含まれる植

物由来成分の多くは、脂溶性が高く肝臓へ蓄積するため、健康被害の発生に注意が必要です。疾患の真の原因発見に、健康食品の聞き取りは重要です。

## 健康食品の正確な情報を 広く発信するために

▶▶ 今後の構想や抱負をお聞かせください。

安達 当院では、健康食品の薬学的管理の標準化を図り、薬剤師全員が同一基準で健康食品に対応できるようになり、実際にプレアポイド報告(薬物治療効果の向上や不利益回避)も増加しました。

患者さんから相談される薬剤師になるためには、健康食品の利用を開始される患者さんの背景にある病気や治療に対する“不安”を、まずは理解する必要があります。続いて、現時点でわかっている健康食品の安全性の情報や有効性の科学的根拠を、わかりやすく説明しなければなりません。そのためには、不足している健康食品による相互作用や副作用事例の収集、エビデンスの蓄積が必要です。そこで当院では、相互作用や副作用が疑われる院内症例のデータベース化を検討しています。

島田 健康志向の高まる中、医薬品だけでなく健康食品の正しい情報を患者さんに伝えることも、薬剤師の重要な役割であると感じています。今後も、安全で安心な治療を提供するため、薬物治療の質の向上を目指していきたいと思っています。

鳥取大学医学部附属病院  
鳥取県米子市西町36-1

病院長: 原田 省  
創設: 1893年  
病床数: 697床  
診療科: 40科  
薬剤師数: 48名



(2018年1月現在)